

## 消費者教育 実践事例集

# 高校生が地元の小学校で「先生」に —地域や学校と連携した小学生への金融経済教育講座—

早坂 剛 Hayasaka Takashi 財務省 東北財務局 理財部 金融監督第三課長

1996年東北財務局採用。大蔵省(現・財務省)理財局や財務総合政策研究所を歴任。2022年7月に現職に就任後、金融リテラシー普及・向上のため、積極的かつ幅広い金融経済教育講座を推進

東北財務局(以下、当局)では、宮城県栗原市で「高校生が講師となる金融経済教育講座」を行っています。目的は、高校生、小学生双方の金融リテラシー(お金に関する知識と判断力)向上です。高校生は、自らが教えることにより金融知識の深化を図ること、小学生は、身近な高校生から学ぶことで意欲的に講座に参加することを期待できます。

## オリジナルプログラムの誕生

### ①背景(栗原市の状況)

栗原市で展開する理由ですが、2006年当時、栗原市は県内でも経済問題を起因とした自殺率が高く、自殺者数も年々増加していました。市は「栗原市いのちを守る緊急総合対策」を策定し総合的な施策を講じるほど、多重債務者救済は喫緊の課題であったことによります。

### ②試行錯誤からプログラム構築へ

当局では、多重債務者発生防止には学校段階からの金融経済教育が効果的と考えていました。栗原市が抱える課題に対して何かできないかと模索する日々が続きましたが、当局職員が従前「宮城県栗原地域事務所」で勤務していたことが追い風となり、議論を重ね、2014年に初めて金融経済教育講座の実施に至りました。

受講校数は順調に増加する一方で「もっと主体的に取り組んでもらうためにはどうしたらよいか?」と検討を重ねるうち、「高校生が学んだ知識を自ら講師となって小学校で教えるのはどうか?」とのアイデアが浮かびました。こうして、県(高校)、市(小学校)、国(当局)が連携し、

3者がメリットを享受する「高校生が講師となる金融経済教育講座」が誕生しました。

### ③実績と学校紹介

2016年にスタートし2022年12月末現在で16回を数えました。高校は栗原市内に所在する県立高校の<sup>つきたて</sup>築館高校、<sup>はくおう</sup>迫桜高校、そして、岩ヶ崎高校の3校です。

## 具体的な進め方—学びと実践—

次に進め方について紹介します。まず、高校と小学校とのマッチングが重要で、双方の関係性や取り組みへの理解度がポイントになります。

また、高校生が講師となるまでには研修が必要となります。理由は、単なる発表会で満足してしまっただけでは相手に真意が伝わらないからです。そのため複数回にわたるプレゼンテーション研修(基礎研修①→基礎研修②→直前研修→実践研修→事後研修)を実施します。大まかな流れは次のとおりです。

- **基礎研修①**：当局の「高校生向け金融経済教育講座」を受講した高校生に対し講師を公募
- **基礎研修②**：時間は2時間程度(複数回)  
内容は、(1)当局が小学生向け金融経済教育講座を披露(模擬)、(2)高校生が講師担当箇所を決める、(3)担当箇所の台本作成、(4)担当箇所の発表(写真1)、(5)当局講師の講評、(6)台本の修正
- **直前研修**：時間は2時間程度  
内容は、(1)リハーサル、(2)当局講師より講評、(3)再リハーサル、(4)最終調整
- **実践研修**：小学校で講師となり講座を実施
- **事後研修**：実際の講座を踏まえての振り返り等

写真1 研修で練習を重ねる高校生のようす



直前研修を習得した高校生が、実践研修として小学校5年生に対し講座を行います。

小学5年生向けの講座名は「マネープランゲーム旅行にGO! -やりくり挑戦-」。目的は、小学生に「上手なお金の使い方」を身に付けてもらうことです。内容は、①お金の使い方、②ワーク、③まとめ、の3部構成です。

①では、お金は働いて得るもので、限りがあること(=お金の大切さ)、おうちの人は収入と支出のバランスを考えて“やりくり”していること(=計画的に使う)を学習します。

②では、①で学んだ“やりくり”を体験します。労働ゲーム(クイズや人生カードなど)でお金を稼ぎ、それを元手に「仙台」「東北」「東京」の3コースから行きたいコースを選びます。泊まる場所、食事、遊ぶ施設も決め、1泊2日の旅行計画を立てます。収入は労働(ゲームの結果)により異なります。また、コースによってかかるお金も違います。小学生による“やりくり”の最大の見せ場です。

③は、ワークの振り返りです。持っているお金の中で、優先順位(必要なものや欲しいもの)を考えて計画的に使うこと、そして、先取り貯蓄に触れ、将来のための資金「備える力」について考えるきっかけを提供します。

高校生はこの講座の中で、①では講師役を(写真2)、②ではアドバイザー役を務めます。

写真2 高校生による講座のようす



## 高校生と小学生の声

高校生、小学生の声を一部紹介します。いろいろな気づきがあったようです。

### ●高校生の声

- ・教えることで家計管理が自分のものになった。
- ・「協力」と「思いやり」は社会で必要と実感。
- ・やると決めて、最後まで全力でやり切った!
- ・自分の短所を克服。自分に自信が持てた。

### ●小学生の声

- ・お金はとても大切。計画的に使いたい。
- ・高校生の先生が分かりやすく教えてくれた。

## まとめ - 課題や展望など -

いかがでしたでしょうか。

本件は関係先との信頼関係が前提で、時間と労力も要し、取り組み拡大には工夫が必要です。

しかし、新型コロナウイルス感染症や物価高、デジタル技術の進展、成年年齢の引下げなど、変化の激しい時代を生きていくためには、自ら課題を見つけ、調べ、考え、他者と協働し、最後までやり遂げる力が必要です。「高校生が講師となる金融経済教育講座」では、金融知識の深化はもちろん、こうした「力」を養う副次的な効果もねらいの1つにしています。

最後になりますが、当局は今回紹介した取り組みを含め、次代を担う子どもたちに必要な金融リテラシーの普及・向上のため、引き続き、歩みを止めることなく取り組んでいきます。